

山行番	N0. 1636
日時	2015. 03. 28 (土) 無風快晴高温
山域	八ツ・赤岳 (2899m)
標高差	上り 赤岳山荘約1680m～赤岳2899m＝約1219m 下り //
タイム	下土狩5:00－美濃戸着7:06－赤岳山荘発7:46－南沢－行者小屋9:58－文三郎道－阿弥陀岳分岐11:25－赤岳12:08～16－行者小屋13:30～51－赤岳山荘15:20－原村・縦の木荘(泊)
参考	2015. 3. 28・・・赤岳山荘7:46～赤岳12:08＝4時間22分 2015. 2. 28・・・赤岳山荘8:13～赤岳12:12＝3時間59分 2009. 2. 15・・・赤岳山荘7:30～赤岳11:30＝約4時間 2008. 4. 13・・・赤岳山荘7:05～赤岳11:10＝4時間5分
参加者	L後藤、勝又陽、浜道、掛橋＝4名

桜の開花宣言も過ぎ 朝の5時出発は冷たくなく起床するにも楽だった。富士山も真冬のようにではなく雪が少なくなってきた。早朝は曇り空だったが、いつの間にか朝焼けが眩しい。天気が悪くなる兆候だとLが教えてくれた。

小淵沢道の駅で日帰り登山のK嬢と待ち合わせ 予定通り美濃戸口にK嬢の車を駐車し、Lの車で赤岳山荘まで上った。美濃戸口から赤岳山荘までの道は車にはとても厳しい道で、車高の低い車は傷がつく。凍結している所、雪溶け水が流れていて 轍が半端でなく深い所、そもそもの道路が陥没している所だらけで、この道を通行するには勇気が要る。徒歩だと、1時間は掛かる。Lのお蔭でこの大切な時間を短縮して、赤岳山荘に予定通り7時20分には到着できた。準備をして、出発。

八ヶ岳、北沢、南沢分岐を7時58分。南沢から上がる。行者小屋までは片ストックを使用する。雪がザラメでジャリジャリと歩く。凍っている所も多いので 10分程上がった所で、アイゼン着用の指示。アイゼンを履くと安心だが、足への荷重が大きくなる。ザックが軽くなり、徐々に上り坂になった樹林帯を耽々と歩く。行者小屋まで長い。三浦雄一郎さんや亡くなられた河野千鶴子さんはアンクルウエイトを装着して生活をこなしていた話を聞いたことがあるが、そういうトレーニングをしていたら難なく上れるだろうと思いつつ、時々フーと大きく息を吐く。若手のK嬢は呼吸も乱れず黙々と上がる。パワフルだ。

約2時間5分、歩き続けて行者小屋(2350m)に到着。やっとエネルギーを補給する。ここまでの長いアプローチが心を折ってしまうが、今回は頑張れる。なぜなら、お天気も良く、風もなく、気温も高めだからだ。チャンス到来だ。気持ちが負けると上れないので、自分を叱咤する。赤岳山頂まで文三郎尾根経由で残り549mを頑張ろう。

この先は急登なので、装備の補充をする。ヘルメット、ハーネス、ストックからピッケルに変更。サングラスをかけ、もしもの風に対応できるようにフードも確認。今日は気温が高めだが、山頂は分からない。

先月、単独登山をしたLは2月より1m位雪が減っているという。1か月間で様変わりと言う。厳寒の赤岳は恐そうだ。文三郎尾根は夏に来た時、階段が多くて辟易した所だ。雪が思ったより少



赤岳が見えた



行者小屋



文三郎道



K又さん



鎖場



ない為、階段がちらちら顔を覗かせている。阿弥陀岳分岐までとにかく急登なのでピッケルをしっ
かり突き刺して上がる。雪質も下部のザラメと違う少し細かい雪だ。

突然 分岐下で、Lが「危ない」と叫んだ。先に行く登山者がザックの横につけていたペットボ
トルを落とした。それはLの右手の甲に直撃した。後で見た所1箇所うっ血していた。少々腫れが
ある。落とした人にLは抗議したが、相手は聾啞の女性だった。何とも困った。私は取り敢えずジ
ェスチャーで怪我をした事と、ペットボトルはザックの中に入れる事を伝えた。一応分かったと思
う。Lは「もういい」と言って先を急ぐことにしたが、納得いかない様子だった。山の危険はどこ
にあるか分からない。聾啞の方々が山を楽しむ時、自分から他の人に危険を伝えられないし、また
危険な音を察知できないのは 何とか工夫出来ないものかと思った。

分岐上部で短い休憩を取り水分補給した後、まもなく足が疲労で攣りそうになったので芍薬甘草
湯を飲んだ。上りは過度の疲労で攣りやすい。Kさんも飲んだ。Lは相変わらずぐんぐん上がる。
私達もあとに続く。

キレット分岐 Lが「もう少しだ」と教えてくれた。赤岳頂上の標識がある。嬉しいが、どこに？
鎖場をどんどん上がる。15分程上がると頂上手前竜頭峰の分岐。そこから岩をよじ登って7分。
やっと頂上のぼろぼろになった「赤岳」の標識を見ることが出来た。苦しい上りだった。だが、疲
れを忘れてしまうロケーションに出会え、最高に幸せだった。Lに色々と説明をしてもらおう。妙高、
火打山、雨飾山、白馬、穂高、乗鞍、噴煙の御嶽山、南アルプス、富士山、甲武信ヶ岳と360度
のパノラマビューは今日登ったご褒美でした。

晴天で、無風だったので頂上での滞在はいつもより長めに取り、危険な下山に入る。と、先程の
聾啞の女性が登ってきた。盛んに「保険」と言うように聞こえる声を口から発している。恐らく重
大な過失をしたことに気がついたようだ。Lは女性が大変危険な事故につながる出来事と理解した
様子を見て「分かったから、もういいよ」と寛大に許した。それが伝わったようで女性は「ありが
と！ありがと！」と聞こえる声を出していた。

毎度のことだが、下山程事故は多い。Lが注意喚起をする。私は注意を促してくれることにいつ
も感謝している。特に命に関わる事だからなおさらだ。自分自身が当然分かっている事だが、再度
自分の脳に注意の刺激を与えてもらって有難い。そのように脳に指示を与えておけば咄嗟の時の行
動は絶対に早いと思う。一人の時でも、声に出して、耳から脳に伝達しておくとう動作が違う。特に
私はそそっかしいので要注意人物。

とにかく危険な文三郎尾根を下って行者小屋で昼食を摂る。それまでは気を緩めないで下る。ピ
ッケルを巧みに使って雪のある急な岩場の坂を下る。アイゼンの引っかけに注意。とても細い所、
凍っている所。直下が崖のような所。ひやひやしながらの下山だった。1時間程で行者小屋に到着。
ヘルメットやハーネスを外し身軽になり、ゆっくりと食事を摂る。青空には巻雲が見え始めLはず
かさず「天気が下り坂になる前に発生しやすい」と説明してくれた。またまた、勉強になった。昼
食を終え ピッケルからストックに切り替えさらに南沢を下山開始。厳しい所を通り過ぎたので気
持ちは随分軽い。重量のあるザックを背負って上がってくる登山客はアイゼン無しの登山靴のまま
の方ばかり。確かに雪は緩んで上がれる状態だが、下りは恐いのでアイゼンをかなり長く履いて樹
林帯を下る。1時間30分足らずで美濃戸山荘に到着。美濃戸山荘のお水は美味しかった。

駐車場まで下り、皆さん大変お疲れ様でした。今夜は八ヶ岳高原の樅の木荘に宿泊なので気持ち
も楽だ。若手のK嬢だけ頑張っただけ帰宅する。

積雪時の赤岳に行ったことのない3人がLの提案に揃って行けたことを大変嬉しく思います。L
に感謝し、仲間と行けたことに感謝です。3人ともが一度は行きたいと思っていたからなおさら今
回の山行は感動でした。有難うございました。



頂上直下



やれやれです



ごくろうさまです



Lです



赤岳頂上



慎重に下る下る



いい山でした
山よ
ありがとう!!!